講義概要
指導計画

Curriculum & Syllabus 2022

介護社会福祉科

介護福祉士コース

介護福祉士養成科

南海福祉看護専門学校

2022年度 開講科目　介護社会福祉科 介護福祉士コース ／ 介護福祉士養成科

系列	教科名	単位数 必修	単位数 選択	担当者	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期		ページ
人間と社会	人間の理解(Ⅰ)	30		中谷	○					1
	人間の理解(Ⅱ)	30		辻	○					2
	人間の理解(Ⅲ)	30		辻				○		3
	社会の理解(Ⅰ)	30		中谷		○				4
	社会の理解(Ⅱ)	30		野村		○				5
	社会の理解(Ⅲ)	30		児玉				○		6
	社会の理解(Ⅳ)	30		村上				○		7
	レクリエーション(Ⅰ)	30		相奈良	○					8
	レクリエーション(Ⅱ)	30		相奈良			○			9
	情報処理	30		永野			○			10
介護	介護の基本(Ⅰ)	60		宮﨑	◎				★	11
	介護の基本(Ⅱ)	30		宮﨑		○			★	12
	介護の基本(Ⅲ)	30		宮﨑			○		★	13
	介護の基本(Ⅳ)	30		中谷				○	★	14
	介護の基本(Ⅴ)	30		宮﨑				○	★	15
	コミュニケーション技術(Ⅰ)	30		原			○		★	16
	コミュニケーション技術(Ⅱ)	30		辻				○	★	17
	生活支援技術(Ⅰ)	30		川口		○				18
	生活支援技術(Ⅱ)	60		村上	◎				★	19
	生活支援技術(Ⅲ)	30		村上		○			★	20
	生活支援技術(Ⅳ)	30		麻生		○			★	21
	生活支援技術(Ⅴ)	30		児玉		○				22
	生活支援技術(Ⅵ)	30		麻生				○	★	23
	生活支援技術(Ⅶ)	30		麻生			○		★	24
	生活支援技術(Ⅷ)	30		宮﨑				○	★	25
	生活支援技術(Ⅸ)	30		星野			○		★	26
	介護過程(Ⅰ)	60		野村	○	○				27
	介護過程(Ⅱ)	60		野村			◎			28
	介護過程(Ⅲ)	30		麻生				○		29
				村上				○		
	介護総合演習(Ⅰ)	60		村上	○					30
				野村		○				
	介護総合演習(Ⅱ)	30		野村			○			31
	介護総合演習(Ⅲ)	30		麻生				○		32
				村上				○		
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解(Ⅰ)	30		麻生	○				★	33
	発達と老化の理解(Ⅱ)	30		麻生		○			★	34
	認知症の理解(Ⅰ)	30		麻生	○				★	35
	認知症の理解(Ⅱ)	30		宮﨑			○		★	36
	障害の理解(Ⅰ)	30		星野		○			★	37
	障害の理解(Ⅱ)	30		七田			○		★	38
	こころとからだのしくみ(Ⅰ)	60		北川	○	○			★	39
	こころとからだのしくみ(Ⅱ)	60		北川	○	○			★	40
医療的ケア	医療的ケア(Ⅰ)	60		西			◎		★	41
	医療的ケア(Ⅱ)	30		西・北川				○	★	42
実習	介護実習(Ⅰ)	288								43
	介護実習(Ⅱ)	168								

※○は1コマで15回授業
※◎は2コマで30回授業

※★は「実務経験のある教員による授業科目」の指定科目

授業科目名	人間の理解（Ⅰ）	講師名	中谷　友和
実施年次／時期	１年次　前期	時間数	30 時間

概要

介護は人間理解と信頼関係のうえに成り立つものである。介護を必要とする者だけでなく、援助者も含めた「人間」の理解や人間の尊厳と人権・福祉理念について理解を深める。障害者、高齢者問わず、介護を必要としている人に対し、人間の尊厳と人権と自立を基礎とし、介護福祉士としての倫理観や職業意識について学ぶ。

目標

1. 「人間」の理解を基礎として、人間の尊厳と自立・自律した生活を支える必要性について理解できる
2. 介護場面における尊厳の保持・自立支援について理解できる

内容

1. オリエンテーション　人間の尊厳と人権・福祉理念、自立の概念を学ぶ意義
2. 人間を理解するということ
3. 人間の尊厳と人権・福祉理念にかかわる歴史
4. 人間の尊厳と人権・福祉理念に関する諸規定
5. 社会生活場面における権利侵害①
6. 社会生活場面における権利侵害②
7. 権利擁護の視点①
8. 権利擁護の視点②
9. 自立の概念①
10. 自立の概念②
11. 自立の概念③
12. 自立の概念④
13. 具体的な事例学習（人間の多様性、多面性への理解を深める）
14. 振り返り
15. 前期試験

教科書　『人間の理解』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験７０％、授業参加度（態度など）３０％で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　人間の尊厳と人権・福祉理念／自立の概念

授業科目名	人間の理解（Ⅱ）	講師名	辻　友紀
実施年次／時期	1年次　前期	時間数	30時間

概要

対人援助に必要な人間の関係性を理解し、
関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。

目標

人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解することができる

内容

1．人間関係の形成①　自己覚知・他者理解
2．人間関係の形成②　信頼関係の形成
3．人間関係の形成③　支援関係における人間関係の形成
4．コミュニケーションの基礎①　言語的コミュニケーション
5．コミュニケーションの基礎②　非言語的コミュニケーション①
6．コミュニケーションの基礎③　非言語的コミュニケーション②
7．コミュニケーションの基礎④　傾聴
8．コミュニケーションの基礎⑤　受容・共感
9．コミュニケーションの基礎⑥　「明確化」「繰り返し」「要約」の技法
10．コミュニケーションの基礎⑦　質問の技法
11．コミュニケーションの基礎⑧　ストレスマネジメント
12．コミュニケーションの基礎⑨　バイステックの7原則
13．コミュニケーションの基礎⑩　高齢者施設におけるコミュニケーション
14．コミュニケーションの基礎⑪　認知症高齢者に対するコミュニケーション
15．前期試験

教科書　『最新 介護福祉士養成講座1　人間の理解』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を活用しながら、資料を毎回配布する。

評価方法　筆記試験90%、出席状況・授業参加度（態度など）10%で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　人間関係の形成とコミュニケーションの基礎

授業科目名	人間の理解（Ⅲ）	講師名	辻　友紀
実施年次 ／時期	2年次　後期	時間数	30時間

概要

介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する。

目標

介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養うことができる

内容

1. オリエンテーション
2. 介護実践におけるチームマネジメントの意義①
3. 介護実践におけるチームマネジメントの意義②
4. 介護実践におけるチームマネジメントの意義③
5. 介護実践におけるチームマネジメントの意義④
6. ケアを展開するためのチームマネジメント①
7. ケアを展開するためのチームマネジメント②
8. ケアを展開するためのチームマネジメント③
9. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①
10. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②
11. 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③
12. 組織の目標達成のためのチームマネジメント①
13. 組織の目標達成のためのチームマネジメント②
14. 組織の目標達成のためのチームマネジメント③
15. 後期試験

教科書　『最新 介護福祉士養成講座 1　人間の理解』（中央法規）

授業の形態／方法　講義・演習／講義は教科書を使用する。演習はビデオ及び小テストにて行う。

評価方法　筆記試験90%、授業参加度（態度など）10%で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　チームマネジメント

授業科目名	社会の理解（Ⅰ）	講師名	中谷　友和
実施年次／時期	１年次　後期	時間数	30 時間

概要

本科目では、個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解する。

また、対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策を理解する。

目標

１．社会と生活のしくみを理解できる
２．地域共生社会の実現に向けた制度や施策を理解できる

内容

１．生活と福祉（１）
２．生活と福祉（２）
３．ライフスタイルの変化
４．家族の機能と役割（１）
５．家族の機能と役割（２）
６．社会・組織の機能と役割（１）
７．社会・組織の機能と役割（２）
８．社会構造の変容（１）
９．社会構造の変容（２）
10．地域・地域社会
11．地域福祉の発展
12．地域共生社会（１）
13．地域共生社会（２）
14．地域包括ケア
15．前期試験

教科書　『社会の理解』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験７０％、授業参加度（態度など）３０％で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　社会と生活のしくみ／地域共生社会の実現に向けた制度や施策

授業科目名	社会の理解（Ⅱ）	講師名	野村　脩
実施年次／時期	１年次　後期	時間数	30 時間

概要

本科目では、高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉と介護保険制度の現状と課題について学ぶ。

目標

１．高齢者福祉の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得することができる
２．介護保険制度の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得することができる

内容

１．介護保険制度創設の背景と目的
２．介護保険制度のしくみの基本的理解（１）
３．介護保険制度のしくみの基本的理解（２）
４．介護保険制度のしくみの基本的理解（３）
５．介護保険制度のしくみの基本的理解（４）
６．介護保険制度のしくみの基本的理解（５）
７．介護保険制度のしくみの基本的理解（６）
８．介護保険制度のしくみの基本的理解（７）
９．介護保険制度のしくみの基本的理解（８）
10．介護保険制度における組織、団体の役割
11．介護保険制度における専門職の役割
12．介護保険制度の動向
13．高齢者保健福祉の動向
14．高齢者保健福祉に関連する法体系
15．後期試験

教科書　『社会の理解』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験 90%、授業参加度（態度など）10%で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　高齢者福祉と介護保険制度

授業科目名	社会の理解（Ⅲ）	講師名	児玉　貴志
実施年次 ／時期	２年次　後期	時間数	30 時間

概要

介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である障害者福祉と障害者保健福祉制度について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を学習する。

目標

1．ＩＣＦの考え方を理解し「障害」の概念について理解できる
2．障害者総合支援制度の基本を理解し、説明できる
3．障害者保健福祉施策の方向性を理解できる

内容

1．障害とは何か？障害者とはだれか？
2．「障害」の捉え方・概念
3．障害者の自立と地域生活支援（１）
4．障害者の自立と地域生活支援（２）
5．障害者総合支援制度（成立経緯と概要）
6．障害者総合支援制度（介護給付と訓練等給付）
7．障害者総合支援制度（自立支援医療と補装具・利用者負担）
8．障害者総合支援制度（地域生活支援事業）
9．障害者総合支援制度（利用手続き・障害支援区分・相談支援）
10．障害者総合支援制度（障害福祉計画・自立支援協議会）
11．障害者総合支援制度に関わる組織とその役割（１）
12．障害者総合支援制度に関わる組織とその役割（２）
13．これからの障害者保健福祉施策の方向性（１）
14．これからの障害者保健福祉施策の方向性（２）
15．試験

教科書　最新 介護福祉士養成講座『社会の理解』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験９０％、授業参加度（態度など）１０％で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　障害者福祉と障害者保健福祉制度

授業科目名	社会の理解（Ⅳ）	講師名	村上　洋次
実施年次／時期	２年次　後期	時間数	30 時間

概要

わが国の社会保障制度の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。

目標

１．社会保障制度の基本的な考え方と仕組みを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉えることができる

２．人間の尊厳の自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する諸制度の基本的な考え方と仕組みを理解することができる

内容

１	社会保障の基本的な考え方（１）
２	社会保障の基本的な考え方（２）
３	日本の社会保障制度の発達（１）
４	日本の社会保障制度の発達（２）
５	日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解（１）
６	日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解（２）
７	現代社会における社会保障制度（１）
８	現代社会における社会保障制度（２）
９	個人の権利を守る制度の概要（１）
１０	個人の権利を守る制度の概要（２）
１１	保健医療福祉に関する施策の概要
１２	介護と関連領域との連携に必要な法規
１３	生活保護制度の概要（１）
１４	生活保護制度の概要（２）
１５	試験

教科書　①新・介護福祉士養成講座２『社会と制度の理解』（中央法規出版）

②見て覚える！介護福祉士　国試ナビ（中央法規出版）毎回持参のこと。

授業の形態／方法　講義／教科書を基本に講義を進め、映像も含めた学習とする

評価方法　授業態度 10%、提出物 10%、小テスト 20%、期末試験 60%

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　社会保障制度／介護実践に関連する諸制度

授業科目名	レクリエーション（Ⅰ）	講師名	相奈良　律
実施年次／時期	1年次　前期	時間数	30時間

概要

レクリエーションという言葉の主旨である「心を元気にすること」を理解し、それを実現するための手段であるレクリエーション活動を有効に活用するための理論と具体的な支援の方法を学ぶ。現場におけるレクリエーション活動に関する計画・実施・振り返り・課題の発見等について学び、レクリエーション活動計画の作成能力の習得と実践的援助能力を向上させる。

目標

1．レクリエーションの社会的意義について理解できる
2．支援の方法などを知り、レクリエーション活動により本人も対象者も生きる喜びを感じられるような提供方法について理解できる
3．人前に立つことに慣れ、楽しさを提供できるようになる

内容

1.オリエンテーション、レクリエーションとは？
2.楽しさと心の元気づくりの理論
3.福祉領域でのレクリエーションの役割
4.コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
5.自主的・主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開法
6.レクリエーション支援の方法：アイスブレーキング
7.レクリエーション支援の方法：ホスピタリティ
8.レクリエーション演習①
9.レクリエーション演習②
10.レクリエーション演習③
11.レクリエーションニーズの把握（アセスメント）と計画の方法
12.レクリエーション実践①
13.レクリエーション実践②
14.レクリエーション実践のふりかえり・まとめ
15.試験

教科書　使用しない
必要に応じて適宜、資料を配布する

授業の形態／方法　講義と演習
／資料を中心に講義をし、企画・演習を行う
毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する

評価方法　筆記試験50%、授業参加度（出席・態度・グループワークの取組み姿勢・発表時の身だしなみ等）30%、課題など提出物20%で総合的に評価する

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項

授業科目名	レクリエーション（Ⅱ）	講師名	相奈良　律
実施年次 ／時期	2年次　前期	時間数	30時間

概要

高齢者や障がい者など支援が必要な方に対して、状態や状況、興味や関心を考慮し、対象者が自主的・主体的に心身の健康を維持・向上できるような支援について学ぶ。高齢者・障がい者の介護の現場でのレクリエーションにおける声かけの方法やアレンジの方法を体得する。レクリエーション財を自分達で考えたり、工夫したりしながらレクリエーション支援者としての必要な援助技術を習得する。

目標

1．高齢者や障がい者等の支援の手段として実施するレクリエーションについて考えることができる
2．対象者の状態（特性）に応じたレクリエーションを考え、実施することができる
3．対象者を取り囲む環境に合わせたレクリエーションを考え、実施することができる

内容

1．オリエンテーション、アイスブレーキング、福祉レクリエーションとは？
2．福祉レクリエーションが展開される分野の概観（高齢者・障がい者）
3．レクリエーション支援におけるアセスメントと計画の立て方
4．高齢者対象のレクリエーション①
5．高齢者対象のレクリエーション②
6．高齢者対象のレクリエーション③
7．レクリエーション活動のアレンジ方法
8．対象者の特性に応じたレクリエーション①
9．対象者の特性に応じたレクリエーション②
10．対象者の特性に応じたレクリエーション③
11．レクリエーション活動支援計画（指導案作成）
12．実践①
13．実践②
14．まとめとふりかえり
15．前期試験

教科書　使用しない
必要に応じて適宜、資料を配布する

授業の形態／方法　講義と演習
／資料を中心に講義し、企画・演習を行う
毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する

評価方法　筆記試験50%、授業参加度（出席・態度・グループワークの取組み姿勢・発表時の身だしなみ等）30%、課題など提出物20%で総合的に評価する

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項

授業科目名	情報処理	講師名	永野　千恵美
実施年次／時期	2年次　前期	時間数	30時間

概要

社会生活で不可欠なPC操作の基礎知識及び技術を身に付け、仕事に役立てる技法を習得する。
Wordを使用し、仕事上必要な文書・お知らせ文の作成方法を習得。
PowerPointを使用し、スライド作成、アニメーションなどの習得とプレゼンテーションの方法を学習。

目標

1．PCの基本操作
2．タッチタイピングの習得
3．Word：チラシやポスターの作成
4．PowerPoint：テーマに沿ったスライド作成・プレゼンテーション（発表）

内容

1．ガイダンスとパソコンの基本操作、ネットワークやデータの取扱
2．タイピング、文字入力、文章入力（Word）
3．タイピング、ビジネス文書の作成練習（Word）
4．タイピング、表作成（Word）
5．タイピング、図形などオブジェクトの取り扱い（Word）
6．タイピング、ポスターなどの作成（Word）
7．タイピング、PowerPoint基本操作
8．タイピング、スライド作成・編集（PowerPoint）
9．タイピング、画像・アニメーションを取り入れる（PowerPoint）
10．タイピング、スライドショー・リハーサルなどの見せ方（PowerPoint）
11．タイピング、テーマを決めて作成練習①（PowerPoint）
12．タイピング、テーマを決めて作成練習②（PowerPoint）
13．タイピング、テーマを決めて作成練習③（PowerPoint）
14．プレゼンテーション練習（PowerPoint）
15．前期試験（実技試験）

教科書　「Word 2016 ワークブック」「PowerPoint 2016 ワークブック」（株式会社カットシステム）

授業の形態／方法　演習／タイピング練習・10分間入力計測・教科書に沿って操作練習

評価方法　試験80%、成長度、提出物、授業態度など20%を基本とし、総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項

授業科目名	介護の基本（Ⅰ）	講師名	宮﨑　明子
実施年次／時期	1年次　前期	時間数	60時間

概要

「介護の基本」は介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことをねらいとした科目である。「介護の基本（Ⅰ）」は（Ⅰ）から（Ⅴ）まで5つに分割した科目の最初の科目として位置づけられる。

目標

①複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解することができる。

②地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の 場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解することができる。

③介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成することがきる。

内容

1．介護の成り立ち
2．介護の成り立ち
3．介護の成り立ち
4．介護の概念の変遷
5．介護の概念の変遷
6．介護の概念の変遷
7．介護福祉の基本となる理念
8．介護福祉の基本となる理念
9．介護福祉の基本となる理念
10．介護福祉士の役割と機能
11．介護福祉士の役割と機能
12．介護福祉士の役割と機能
13．社会福祉士及び介護福祉士法
14．社会福祉士及び介護福祉士法
15．中間試験
16．社会福祉士及び介護福祉士法
17．介護福祉士養成カリキュラムの変遷
18．介護福祉士養成カリキュラムの変遷
19．介護福祉士養成カリキュラムの変遷
20．介護福祉士を支える団体
21．介護福祉士を支える団体
22．介護福祉士を支える団体
23．介護福祉士の倫理
24．介護福祉士の倫理
25．介護福祉士の倫理
26．介護福祉士の倫理
27．日本介護福祉士会の倫理綱領
28．日本介護福祉士会の倫理綱領
29．日本介護福祉士会の倫理綱領
30．前期試験

教科書　『介護の基本Ⅰ』最新 介護福祉士養成講座3（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験80%、授業態度10%、提出物10%を総合的に評価する。

その他の事項　[実務経験のある教員による授業科目]
介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、介護の基本の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　介護福祉の基本となる理念／介護福祉士の役割と機能／介護福祉士の倫理

授業科目名	介護の基本（Ⅱ）	講師名	宮﨑　明子
実施年次／時期	1年次　後期	時間数	30時間

概要

「介護の基本」は介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことをねらいとした科目である。「介護の基本（Ⅱ）」は（Ⅰ）から（Ⅴ）まで5つに分割した科目の中の1つである。

目標

①ＩＣＦの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解することができる。

②介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解することができる。

内容

1．自立に向けた介護（自立支援の考え方）
2．自立に向けた介護（自立支援の考え方）
3．自立に向けた介護（ＩＣＦの考え方）
4．自立に向けた介護（ＩＣＦの考え方）
5．自立に向けた介護（自立支援とリハビリテーション）
6．自立に向けた介護（自立支援とリハビリテーション）
7．自立に向けた介護（自立支援と介護予防）
8．自立に向けた介護（自立支援と介護予防）
9．私たちの生活の理解
10．私たちの生活の理解
11．介護を必要とする人の理解（介護福祉を必要とする人たちの暮らし）
12．介護を必要とする人の理解（介護福祉を必要とする人たちの暮らし）
13．介護を必要とする人の理解（「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解）
14．介護を必要とする人の理解（生活のしづらさの理解とその支援）
15．後期試験

教科書　『介護の基本Ⅰ』最新 介護福祉士養成講座3（中央法規出版）
『介護の基本Ⅱ』最新 介護福祉士養成講座4（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験80%、授業態度10%、提出物10%を総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、介護の基本の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　自立に向けた介護／介護を必要とする人の理解

授業科目名	介護の基本（Ⅲ）	講師名	宮﨑　明子
実施年次／時期	2年次　前期	時間数	30時間

概要

介護サービスにおける多職種連携の意義と目的を学ぶ。地域連携の意義と目的を学ぶ。介護サービス提供の仕組み、施設について学ぶ。障害総合支援制度における介護サービスの実際を学ぶ。

目標

1．介護保険制度における、介護サービスの実際を理解できる
2．障害者総合支援制度における、介護サービスの実際を理解できる
3．施設や居宅（在宅場面）において、介護サービスの提供の特徴が理解できる
4．介護サービス現場で必要とされる、多職種連携、地域連携の在り方が理解できる
5．介護福祉士の立場から、介護サービスに関する仕組みを他者（対象者や多職種）に説明することができる

内容

1．協働する多職種の機能と役割①　多職種連携の意義と目的
2．協働する多職種の機能と役割②　連携する各職種の理解
3．協働する多職種の機能と役割③　地域連携の意義と目的
4．協働する多職種の機能と役割④　地域包括ケアの考え方
5．介護保険サービス　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①　介護老人福祉施設
6．介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②　介護老人保健施設と介護療養型医療施設
7．介護を必要とする人の生活を支えるしくみ③　認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
8．介護を必要とする人の生活を支えるしくみ④　有料老人ホーム、サービス付高齢者向け住宅等
9．介護を必要とする人の生活を支えるしくみ⑤　居宅サービス
10．介護を必要とする人の生活を支えるしくみ⑥　地域密着型介護老人福祉施設
11．介護を必要とする人の生活を支えるしくみ⑦　介護保険サービスの仕組み（ケアプラン、ケアマネジメントの流れと仕組み）
12．障害者総合支援サービス　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①　障害者総合支援サービスの仕組み
13．介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②　訪問系サービス
14．介護を必要とする人の生活を支えるしくみ③　施設系サービス
15．試験

教科書　『介護の基本Ⅱ』最新 介護福祉士養成講座４（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験80%　授業態度10%　提出物10%を総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、介護の基本の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ／協働する多職種の機能と役割

授業科目名	介護の基本（Ⅳ）	講師名	中谷　友和
実施年次 ／時期	２年次　後期	時間数	30 時間

概要

１．介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解する。

２．介護における安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。

目標

１．介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解できる

内容

１．介護における安全の確保（１）
２．介護における安全の確保（２）
３．介護におけるリスクマネジメント（１）
４．介護におけるリスクマネジメント（２）
５．介護におけるリスクマネジメント（３）
６．介護におけるリスクマネジメント（４
７．介護におけるリスクマネジメント（５）
８．事例検討①　介護における安全の確保に向けた危険予知①
９．事例検討②　介護における安全の確保に向けた危険予知②
10．感染症対策（１）
11．感染症対策（２）
12．感染症対策（３）
13．様々なリスクに関する諸問題①
14．様々なリスクに関する諸問題②
15．後期試験

教科書　『介護の基本Ⅱ』最新 介護福祉士養成講座４（中央法規出版）

授業の形態　講義
／方法　／教科書と資料を併用

評価方法　筆記試験７０％、授業参加度（態度など）３０％で総合的に評価する。

その他の事項　[実務経験のある教員による授業科目]
介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、介護の基本の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　介護における安全の確保とリスクマネジメント

授業科目名	介護の基本（V）	講師名	宮﨑　明子
実施年次 ／時期	2年次　後期	時間数	30時間

概要

介護従事者の抱える心身の健康問題と健康管理について学ぶ。介護従事者に対する労働安全対策を学ぶ。介護観を自己覚知し現場での活かし方を学ぶ。

目標

1．介護従事者が就業を継続する中で表れやすい「心身の健康問題」「心身の健康管理」について理解できる
2．介護福祉士の働く上での「労働安全対策」を学び、対人援助職の様々な課題について理解できる
3．介護従事者となると共に、要介護者の介護を受ける心理的側面も学び、求められる介護福祉士像と介護観を自己覚知し、現場での介護に繋げる技術が理解できる

内容

1．オリエンテーション
2．介護従事者の安全①　健康管理の意義と目的
3．介護従事者の安全②　健康管理に必要な知識と技術
4．介護従事者の安全③　安心して働ける環境作り
5．介護従事者の安全④　専門職業人としての介護福祉士
6．介護従事者の安全⑤　生活者としてあなた自身がよりよく生きる
7．介護従事者の安全⑥　ワーカー自身の身体的ケアの方法
8．介護従事者の安全⑦　ワーカー自身の精神的ケアの方法
9．多職種連携について
10．地域連携　地域包括ケアシステム
11．介護従事者の安全　具体的事例①
12．介護従事者の安全　具体的事例②
13．介護観について（映像）①個人ワーク・グループワーク
14．介護観について（映像）②グループ発表
15．後期試験

教科書　『介護の基本Ⅱ』最新 介護福祉士養成講座４（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験80%、授業態度10%、提出物10%を総合的に評価する。

その他の事項　[実務経験のある教員による授業科目]
介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護　実務がある教員が、介護の基本の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　介護従事者の安全

授業科目名	コミュニケーション技術（Ⅰ）	講師名	原　悦子
実施年次／時期	2年次　前期	時間数	30時間

概要

本科目では、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーション技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。

目標

1．介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を理解することができる
2．利用者やその家族等との関係づくりを理解することができる

内容

1．	介護を必要とする人とのコミュニケーション①	一年次学習内容のふりかえり
2．	介護を必要とする人とのコミュニケーション②	介護におけるコミュニケーションとは
3．	介護を必要とする人とのコミュニケーション③	介護におけるコミュニケーションの対象
4．	介護を必要とする人とのコミュニケーション④	援助関係とコミュニケーション
5．	介護を必要とする人とのコミュニケーション⑤	目的別のコミュニケーション技術
6．	介護を必要とする人とのコミュニケーション⑥	集団におけるコミュニケーション技術
7．	介護における家族とのコミュニケーション①	家族との関係づくり①
8．	介護における家族とのコミュニケーション②	家族との関係づくり②
9．	介護における家族とのコミュニケーション③	家族との関係づくり③
10．	介護における家族とのコミュニケーション④	家族への助言・指導・調整①
11．	介護における家族とのコミュニケーション⑤	家族への助言・指導・調整②
12．	介護における家族とのコミュニケーション⑥	家族関係と介護ストレスへの対応①
13．	介護における家族とのコミュニケーション⑦	家族関係と介護ストレスへの対応②
14．	まとめとふりかえり	
15．	前期試験	

教科書　『最新・介護福祉士養成講座5　コミュニケーション技術』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料等を使用する。

評価方法　筆記試験60%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など40%

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
社会福祉士を取得後5年以上の相談援助実務経験がある教員がコミュニケーション技術の講義および演習を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　介護を必要とする人とのコミュニケーション／介護における家族とのコミュニケーション

授業科目名	コミュニケーション技術（Ⅱ）	講師名	辻　友紀
実施年次／時期	2年次　後期	時間数	30時間

概要

介護の場面では、利用者や家族・関係機関とのより良い関係づくりのために、コミュニケーションが必要とされる。他の授業で学習した障がいや疾患を整理し、それぞれに応じたコミュニケーション方法を理解する。

チームコミュニケーションについて理解を深め、実践的な力を身につける。

目標

1. 利用者の特性に応じたコミュニケーション方法が理解できる
2. チームのコミュニケーションとチームアプローチの必要性が理解できる

内容

1. オリエンテーション：
2. 障害の特性に応じたコミュニケーション①
3. 障害の特性に応じたコミュニケーション②
4. 障害の特性に応じたコミュニケーション③
5. 障害の特性に応じたコミュニケーション④
6. 障害の特性に応じたコミュニケーション⑤
7. 障害の特性に応じたコミュニケーション⑥
8. 介護におけるチームのコミュニケーション①
9. 介護におけるチームのコミュニケーション②
10. 介護におけるチームのコミュニケーション③
11. 介護におけるチームのコミュニケーション④
12. 介護におけるチームのコミュニケーション⑤
13. 介護におけるチームのコミュニケーション⑥
14. 振り返り
15. 試験

教科書	『最新 介護福祉士養成講座５　コミュニケーション技術』(中央法規)
授業の形態／方法	演習・講義 ／教科書を中心に、適宜配布資料等を使用する。
評価方法	試験 90%、授業態度及び参加状況 10%で判断
その他の事項	[実務経験のある教員による授業科目] 社会福祉士を取得後 5 年以上の相談援助実務経験がある教員がコミュニケーション技術の講義および演習を行う。
介護福祉士教育に含むべき事項	障害の特性に応じたコミュニケーション／介護におけるチームのコミュニケーション

授業科目名	生活支援技術（Ⅰ）	講師名	川口　朋寿
実施年次／時期	１年次　後期	時間数	30 時間

概要

１．生活支援の理解という観点から生活を支える基本的な考え方について理解する。

２．自立に向けた居住環境の整備について理解する。

目標

１．生活支援の理解という観点から生活を支える基本的な考え方について理解できる

２．自立に向けた居住環境の整備について理解できる

内容

１．生活支援の理解（１）
２．生活支援の理解（２）
３．生活支援の理解（３）
４．生活支援の理解（４）
５．生活支援の理解（５）
６．自立に向けた居住環境の整備（１）
７．自立に向けた居住環境の整備（２）
８．自立に向けた居住環境の整備（３）
９．自立に向けた居住環境の整備（４）
10．自立に向けた居住環境の整備（５）
11．自立に向けた居住環境の整備（６）
12．ＩＣＦの生活機能モデル
13．生活支援のポイント・生活支援とチームアプローチ
14．高齢化の現状
15．後期試験

教科書　『生活支援技術Ⅰ』最新 介護福祉士養成講座６（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験 65%、小テスト及び授業参加度：グループワーク（態度：発言など）35%で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　生活支援の理解／自立に向けた居住環境の整備

授業科目名	生活支援技術（Ⅱ）	講師名	村上　洋次
実施年次／時期	１年次　前期	時間数	60 時間

概要

利用者が年齢や障がい、介護度のいかんに関わらず、また、施設、在宅を問わず、安心して日々を過ごすためには、介護提供者の中核となる介護福祉士の技術が何よりも重要となる。

目標

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得し統合する。また、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につける。

内容

1. ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・授業の進め方・演習時の心得
2. 環境の整備　寝具の衛生管理・意義と目的・介護の基本
3. リネン類のたたみ方
4. ベッドメーキング　２人方法
5. シーツ交換・ベッドメーキング　１人方法
6. ベッドメーキング　１人方法（計測）
7. 自立に向けた移動の介護、意義と目的、介護の基本、移動に関するアセスメント・移動の介助方法
8. 【実技試験】ベッドメーキング　１人方法
9. 体位変換、安楽な体位の保持、移動介助、安楽な体位の保持・床からの立ち上がり
10. 身体拘束と良肢位について
11. 移動介助の演習
12. 車いすの介助・歩行介助・補助具の活用
13. 自立に向けた排泄介護、意義と目的・介護の基本、オムツ体験について
14. 【実技試験】移譲介助
15. 排泄に関するアセスメント
16. オムツ交（尿便器、Ｐトイレ）の介助
17. 【小テスト】姿勢と体位・車いす、事故の予防と事故時の対応
18. 自立に向けた食事の介護、意義と目的・介護の基本
19. 自立に向けた食事の介護、食事に関するアセスメント
20. 事故の予防と事故時の対応
21. 安全な食事介助
22. 自立に向けた口腔のケア
23. 状態別口腔ケア
24. 自立に向けた身支度の介護、意義と目的、介護の基本
25. 身支度に関するアセスメント
26. 着脱介助の演習（座位での方法）
27. 着脱介助の演習（臥床時の方法）
28. 着脱介助と移動介助
29. 【実技試験】着脱介助と移動介助
30. 試験

教科書	最新介護福祉士養成講座　6　生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新介護福祉士養成講座　7　生活支援技術Ⅱ（中央法規）
授業の形態 **方　法**	講義、演習 教科書を基にした講義、演習を行う
評価方法	実技試験 40%、小テスト 10%、演習記録の提出状況 10%、期末試験 40%
その他の事項	［実務経験のある教員による授業科目］ 介護福祉士を取得後５年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後５年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。
介護福祉士教育に含むべき事項	自立にむけた身じたくの介護／自立に向けた移動の介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた排泄の介護／福祉用具の意義と活用

授業科目名	生活支援技術（Ⅲ）	講師名	村上　洋次
実施年次／時期	１年次　後期	時間数	30 時間

概要

利用者が年齢や障がい、介護度のいかんに関わらず、また、施設、在宅を問わず、安心して日々を過ごすためには、介護提供者の中核となる介護福祉士の技術が何よりも重要となる。

目標

尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得し統合する。また、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養い、演習で学んだことを振り返りながら、記録としてまとめる力も身につける。

内容

１.自立に向けた入浴・清潔保持の介護・意義と目的　介護の基本・オムツ体験演習
２.入浴・清潔保持に関するアセスメント
３.演習　リフト浴
４.演習　特浴
５.演習　全身清拭
６.演習　部分浴・爪の手入れ
７．【実技試験の演習】ベッドからポータブルトイレへの介助
８．休息・睡眠の介護・意義と目的　介護の基本
９．【実技試験】ベッドからポータブルトイレへの介助①
１０.【実技試験】ベッドからポータブルトイレへの介助①
１１．自立に向けた居住環境の整備・意義と目的　介護の基本
１２．【グループワーク】居住環境について
１３．事例をもとにした介護方法を考える
１４.【グループワーク・発表】事例をもとにした介護方法
１５.試験

教科書	最新介護福祉士養成講座　6　生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新介護福祉士養成講座　7　生活支援技術Ⅱ（中央法規）
授業の形態	講義、演習
方　　法	教科書を基にした講義、演習を行う
評価方法	実技試験 40%、小テスト 10%、演習記録の提出状況 10%、期末試験 40%
その他の事項	[実務経験のある教員による授業科目] 介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。
介護福祉士教育に含むべき事項	自立にむけた入浴・清潔保持の介護／休息・睡眠の介護 ／自立に向けた居住環境の整備

授業科目名	生活支援技術（Ⅳ）	講師名	麻生　理津子
実施年次／時期	1年次　後期	時間数	30時間

概要

1．高次脳機能障害、難病の医学的・心理的側面の基礎的な知識を理解する。

2．高次脳機能障害、難病のある人の生活上の影響、自立を支援するための生活支援を理解する。

目標

1．高次脳機能障害、難病の医学的・心理的特性が理解できる

2．高次脳機能障害、難病に応じた生活支援技術（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）が理解できる

内容

1．高次脳機能障害（1）

2．高次脳機能障害（2）

3．高次脳機能障害の人への支援（1）
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）

4．高次脳機能障害の人への支援（2）
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）

5．高次脳機能障害の人への支援（3）
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）

6．全介助を要する人への介護

7．難病による障がいと支援

8．難病の人への介護（1）― 筋萎縮性側索硬化症（ＡＬＳ）
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）

9．難病の人への介護（2）― パーキンソン病
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）

10．難病の人への介護（3）― 悪性関節リウマチ
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）

11．難病の人への介護（4）― 筋ジストロフィー
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）

12．模擬問題（1）

13．模擬問題（2）

14．模擬問題（1）（2）の解答と解説

15．後期試験

教科書　『生活支援技術Ⅲ』最新 介護福祉士養成講座８（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義・演習／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験70%、模擬問題および授業参加度（態度など）30%で総合的に評価する。

その他の事項　[実務経験のある教員による授業科目]介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護／福祉用具の意義と活用

授業科目名	生活支援技術（Ⅴ）	講師名	児玉　貴志
実施年次／時期	１年次　後期	時間数	30 時間

概要

重症心身障害、知的障害、精神障害、発達障害の医学的理解を深め、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた実践を行うための知識・技術を学習し、支援技術を身につける。

目標

１.重症心身障害、知的障害、精神障害、発達障害の医学的な理解ができる

２.重症心身障害、知的障害、精神障害、発達障害に応じた生活支援技術（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）が理解できる

内容

１．オリエンテーション
２．重症心身障害の理解
３．重症心身障害の生活上の困りごと（観察の視点）
４．重症心身障害に応じた支援の展開
５．知的障害の理解
６．知的障害の生活上の困りごと（観察の視点）
７．知的障害に応じた支援の展開
８．統合失調症の理解と生活上の困りごと（観察の視点）
９．統合失調症に応じた支援の展開
10．気分障害の理解と生活上の困りごと（観察の視点）
11．気分障害に応じた支援の展開
12．発達障害の理解
13．発達障害の生活上の困りごと（観察の視点）
14．発達障害に応じた支援の展開
15．後期試験

教科書　最新 介護福祉士養成講座８『生活支援技術Ⅲ』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験９０％、授業参加度（態度など）１０％で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護

授業科目名	生活支援技術（Ⅶ）	講師名	麻生　理津子
実施年次／時期	2年次　後期	時間数	30時間

概要

1．内部障害の定義、分類、症状について理解する。

2．心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害のある人の生活上の影響、自立を支援するための生活支援を理解する。

目標

1．心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害の医学的・心理的特性が理解できる

2．心臓、呼吸器、腎臓、排泄器官（膀胱・直腸）、小腸、肝臓のそれぞれの機能障害に応じた生活支援技術（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）が理解できる

内容

1．内部障害の基礎的理解

2．心臓機能障害のある人の医学的・心理的理解

3．心臓機能障害のある人の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）

4．呼吸機能障害のある人の医学的・心理的理解

5．呼吸機能障害のある人の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）

6．腎臓機能障害のある人の医学的・心理的理解

7．腎臓機能障害のある人の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）

8．膀胱・直腸機能障害のある人の医学的・心理的理解

9．膀胱・直腸機能障害のある人の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）

10. 小腸機能障害のある人の医学的・心理的理解、小腸機能障害のある人の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）

11. 肝臓機能障害のある人の医学的・心理的理解、肝臓機能障害のある人の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）

12. 模擬問題（1）

13. 模擬問題（1）の解答と解説

14. 模擬問題（2）、解答と解説

15. 後期試験

教科書　『生活支援技術Ⅲ』最新 介護福祉士養成講座8（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験70%、模擬問題および授業参加度（態度など）30%で総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］ 介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護

授業科目名	生活支援技術（Ⅶ）	講師名	麻生　理津子
実施年次／時期	2年次　前期	時間数	30時間

概要

1．肢体不自由、視覚障害、聴覚・言語障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を理解する。
2．肢体不自由、視覚障害、聴覚・言語障害のある人の生活上の影響、自立を支援するための生活支援を理解する。

目標

1．肢体不自由、視覚障害、聴覚・言語障害の医学的・心理的特性が理解できる
2．肢体不自由、視覚障害、聴覚・言語障害に応じた生活支援技術（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）が理解できる

内容

1．肢体不自由の医学的・心理的理解
2．肢体不自由のある高齢者の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）
3．肢体不自由のある人の生活の理解
4．肢体不自由のある人の生活支援技術 ― 演習課題
5．視覚障害の医学的・心理的理解
6．視覚障害のある高齢者の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）
7．視覚障害のある人の生活の理解
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）
8．視覚障害のある人の生活支援技術 ― 演習課題
9．聴覚・言語障害の医学的・心理的理解
10．聴覚・言語障害のある高齢者の介護
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）
11．聴覚・言語障害のある人の生活の理解
（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護）
12．聴覚・言語障害のある人の生活支援技術 ― 演習課題
13．模擬問題
14．模擬問題の解答と解説
15．前期試験

教科書　『生活支援技術Ⅲ』最新 介護福祉士養成講座８（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験70%、模擬問題および授業参加度（態度など）30%で総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護

授業科目名	生活支援技術（Ⅷ）	講師名	宮﨑　明子
実施年次／時期	2年次　後期	時間数	30時間

概要

家庭経営や家庭生活とは何かを理解し、対象者の特性に応じた、生活支援としての家事の介護の方法を学ぶ。自立に向けた家事の介護を実践するための具体的な方法を身につける。

目標

1．自立に向けた家事の介護についての基本的な調理、洗濯、掃除等ができる。
2．家事の支援の必要な人の状況を理解した上で、家事に対するそれぞれの生活課題を探し、個別性に応じた家事の介護ができる。

内容

1．自立に向けた家事の介護に関わる基礎知識
2．調理技術の習得①
3．調理技術の習得②
4．調理技術の習得③
5．洗濯技術の習得①
6．洗濯技術の習得②
7．裁縫技術の習得①
8．裁縫技術の習得②
9．裁縫技術の習得③
10．掃除、ごみ捨ての技術の習得①
11．掃除、ごみ捨ての技術の習得②
12．衣類、寝具の衛生管理技術の習得
13．買物、家庭経営技術の習得
14．意欲を引き出すための個別性を重視した家事援助に向けてのアセスメント、発表
15．後期試験

教科書　『生活支援技術Ⅰ』最新 介護福祉士養成講座6（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義・演習／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験80%、授業態度10%、提出物10%を総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　自立に向けた家事の介護

授業科目名	生活支援技術（Ⅸ）	講師名	星野　大輔
実施年次／時期	２年次　前期	時間数	30 時間

概要

１．要介護者との関わりの中にある、具体的な生活場面での対応方法を理解する。
２．人生の最終段階における介護実践を行うための基礎的な知識・技術を習得する。
３．応急手当の知識と技術を習得する。
４．被災地における生活支援について理解する。

目標

１．介護の必要な対象者を想定し、生活支援技術（自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用）が理解できる
２．人生の最終段階における介護実践を行うための基礎的な知識・技術を習得できる
３．応急手当の知識と技術を習得できる
４．被災地における生活支援について理解できる

内容

１．受診時の介護（１）
２．受診時の介護（２）
３．薬剤使用時の介護（１）
４．薬剤使用時の介護（２）
５．感染の予防と対策（１）
６．感染の予防と対策（２）
７．感染の予防と対策（３）
９．自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用（１）
10．自立に向けた移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、家事の介護、休息・睡眠の介護、福祉用具の意義と活用（２）
11．応急手当の知識と技術
12．被災地における生活支援
13．人生の最終段階における介護（１）
14．人生の最終段階における介護（２）
15．前期試験

教科書　『生活支援技術Ⅰ』最新 介護福祉士養成講座６（中央法規出版）
『生活支援技術Ⅱ』最新 介護福祉士養成講座７（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義と演習／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験 80%、授業参加度（態度など）20%で総合的に評価する。

その他の事項　[実務経験のある教員による授業科目]
介護福祉士を取得後５年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後５年以上の看護実務がある教員が、生活支援技術の講義および演習を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　自立に向けた移動の介護／自立に向けた身じたくの介護／自立に向けた食事の介護／自立に向けた入浴・清潔保持の介護／自立に向けた排泄の介護／自立に向けた家事の介護／休息・睡眠の介護／福祉用具の意義と活用／人生の最終段階における介護

授業科目名	介護過程（Ⅰ）	講師名	野村　脩
実施年次／時期	1年次　通年	時間数	60時間

概要

介護過程は他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う科目である。横断的な学習が必要であることから、必要に応じて他科目で学習した事例、内容を取り入れながら授業を実施する。本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。本科目では情報収集およびアセスメントの方法を学習する。

目標

1．介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できる
2．個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開を理解できる

内容

1．介護過程の意義と基礎的理解①
　介護過程とは何か(イメージ、他者理解、課題解決方法)
2．介護過程の意義と基礎的理解②
　介護過程の構成要素と定義(アセスメント、計画、実施、評価)
3．介護過程におけるニーズとは
4．介護過程における情報収集　考え方①
5．介護過程における情報収集　考え方②
6．介護過程における情報収集　演習①
7．介護過程における情報収集　演習②
8．介護過程とＩＣＦの関係性①
9．介護過程とＩＣＦの関係性②
10．介護過程とＩＣＦの関係性③
11．介護過程の展開の理解（アセスメント）
　情報整理シート①
12．介護過程の展開の理解（アセスメント）
　情報整理シート②
13．介護過程の展開の理解（アセスメント）
　プラスとマイナスの情報を整理する視点①
14．介護過程の展開の理解（アセスメント）
　プラスとマイナスの情報を整理する視点②
15．前期試験
16．介護過程の展開の理解
　アセスメントシート　情報の解釈について
17．介護過程の展開の理解
　アセスメントシート　情報の解釈①
18．介護過程の展開の理解
　アセスメントシート　情報の解釈②
19．介護過程の展開の理解
　アセスメントシート　情報の解釈③
20．介護過程の展開の理解
　アセスメントシート　情報の解釈（演習）
21．情報整理シート　復習
22．アセスメントシート　復習
23．プロセスレコード①目的、記入方法
24．プロセスレコード②演習
25．情報整理シート(実習に向けて・記述方法)
26．情報整理シート(実習に向けて・収集方法)
27．介護過程の展開の理解　事例学習①
28．介護過程の展開の理解　事例学習②
29．第2段階実習に際しての留意事項
30．後期試験

教科書　オリジナルテキスト『介護過程テキスト』

授業の形態／方法　講義・演習
／講義は教科書を使用する。演習は模擬事例で介護過程を展開する。

評価方法　筆記試験90%、授業参加度（態度など）10%で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　介護過程の意義と基礎的理解／介護過程の展開の理解

授業科目名	介護過程（Ⅱ）	講師名	野村　脩
実施年次／時期	2年次　前期	時間数	60時間

概要

介護過程は他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う科目である。横断的な学習が必要であることから、必要に応じて他科目で学習した事例、内容を取り入れながら授業を実施する。本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する。本科目では情報収集およびアセスメント、介護計画の立案、評価の一連の方法を学習する。

目標

1．様々な生活環境で暮らす利用者の事例を通じて、介護過程の展開が理解できる
2．第2段階実習(実習Ⅱ)で担当した利用者情報をもとに、介護過程の実践的展開が理解できる
（ニーズ，生活上の課題設定、目標設定、具体的援助内容、実施記録、評価ができる）
3．介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解できる

内容

1．介護過程の実践的展開の理解①
（第2段階実習のふりかえり）
2．介護過程の実践的展開の理解②
（第2段階実習のふりかえり）
3．介護計画の全体像(計画立案、実施、評価、修正)
4．利用者ニーズの捉え方と優先順位の検討
5．ニーズと生活上の課題の設定①
6．ニーズと生活上の課題の設定②
7．ニーズと生活上の課題の設定③
8．ニーズと生活上の課題の設定（演習）
9．ニーズと生活上の課題の設定（演習）
10．ニーズと生活上の課題の設定（演習）
11．ニーズと生活上の課題の設定（演習）
12．目標と期間の設定①
13．目標と期間の設定（演習）
14．援助方法の設定①（具体的援助内容）
15．援助方法の設定②（具体的援助内容）
16．援助方法の設定③（具体的援助内容）
17．援助方法の設定④（具体的援助内容）
18．実施方法(利用者の同意、計画の修正)
19．実施記録の書き方
20．評価及び、評価方法と修正
21．介護過程とチームアプローチ①
介護福祉士と専門職との関係性
22．介護過程とチームアプローチ②
サービス担当者会議の実際
23．介護過程とチームアプローチ③
ケースカンファレンスの実際
24．介護過程とチームアプローチ④
介護現場における会議の意義
25．介護記録の意義（情報共有と個人情報保護）
26．介護過程の展開の理解(居宅利用者の場合)
27．介護過程の展開の理解
（ケアマネジメントと介護過程の関係性）
28．介護過程の実践的展開の理解　復習
29．実習Ⅱ(第3段階実習)に向けて
30．前期試験

教科書	オリジナルテキスト『介護過程テキスト』
授業の形態／方法	講義・演習 ／講義は教科書を使用する。演習は第2段階実習(実習Ⅱ)で担当した利用者事例および模擬事例で介護過程を展開する。
評価方法	筆記試験90%、授業参加度（態度など）10%で総合的に評価する。
その他の事項	
介護福祉士教育に含むべき事項	介護過程の展開の理解／介護過程とチームアプローチ

授業科目名	介護過程（Ⅲ） （介護福祉士コース・介護福祉士養成科）	講師名	麻生　理津子・村上　洋次
実施年次 ／時期	2年次　後期	時間数	30時間

概要

本科目は、介護過程の学習の一環として、2年次の夏の第3段階実習（実習Ⅱ）において介護過程の実践的展開の対象とした利用者に関する事例研究を行う。事例研究とは何か、またその方法を学び、事例研究を行うための基礎知識や技法を習得する。論文の作成および発表や講評を行う。なお、本科目は介護総合演習（Ⅲ）と組み合わせて実施する。

目標

1．質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解できる
2．第3段階実習（実習Ⅱ）において介護過程の実践的展開の対象とした利用者に関する事例研究を行い、論文としてまとめることができる
3．論文に記述した内容を口頭発表することができる

内容

1．介護過程の実践的展開の理解（ふりかえり）と研究テーマの設定（介護実践の科学的探究）
2．事例研究のための基礎知識、技法の習得（1）（介護実践の科学的探究）
3．事例研究のための基礎知識、技法の習得（2）（介護実践の科学的探究）
4．文献検索・資料収集（1）
5．文献検索・資料収集（2）
6．事例研究論文作成（1）
7．事例研究論文作成（2）
8．事例研究論文作成（3）
9．事例研究論文作成（4）
10．事例研究論文作成（5）
11．事例研究論文作成（6）
12．事例研究論文発表・講評（1）（班内）
13．事例研究論文発表・講評（2）（班内）
14．事例研究論文発表・講評（3）（班内）
15．事例研究論文発表・講評（全体会）

教科書　適宜、資料を配布する。

授業の形態／方法　演習・講義
／各自の論文執筆を中心に進める。班内で発表・講評を行う。各班の代表者1名が全体会で発表を行う。全体会には1年生も出席する。

評価方法　事例研究論文の内容80%、授業参加度（態度など）20%で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　介護過程の展開の理解

授業科目名	介護総合演習（Ⅰ） （介護福祉士コース・介護福祉士養成科）	講師名	村上　洋次
実施年次 ／時期	１年次　通年	時間数	60 時間

概要

本科目では、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。１年次の第１段階・グループホーム実習・就労移行・継続支援施設実習・第２段階実習が円滑に、効果的に実施できるための準備および振り返りを行う。

目標

１．実習の意義と目的について理解できる
２．各実習の準備を行うことができる
３．実習記録を適切に記述できる
４．実習反省会に参加し、自己の課題を明確にすることができる

内容

１．介護実習の意義と目的
２．介護実習の手続きについて
３．２年生の実習反省会に参加し、レポート作成
４．『実習の要項』説明（１）
５．『実習の要項』説明（２）
６．実習生カード作成
７．実習日誌・記録について（１）
８．実習日誌・記録について（２）
９．介護老人福祉施設・デイサービスの概要と見学準備
10．介護老人福祉施設・デイサービス見学
11．第１段階実習（介護老人福祉施設）・デイサービス実習の目標設定
12．実習日誌・記録について（３）
13．オリエンテーション、カンファレンスについて
14．知識と技術の統合・実習の最終準備
15．前期試験
16．実習帰校日
　　グループホーム実習説明・目標設定
17．実習反省会準備（１）
18．実習反省会準備（２）
19．実習反省会・介護実践の科学的探究
20．就労移行・継続支援施設実習準備（１）
21．就労移行・継続支援施設実習準備（２）
22．第２段階実習の説明
23．第２段階実習の目標・課題設定（１）
24．第２段階実習の目標・課題設定（２）
25．第２段階実習の目標・課題設定（３）
26．実習日誌・記録について（４）
27．実習日誌・記録について（５）
28．実習日誌・記録について（６）
29．第２段階実習の最終準備
30．後期試験

教科書	『実習に関する要項』（初回に配布する）
授業の形態／方法	講義・演習 ／講義および演習（各人の実習準備作業、レポート作成、グループ討議など）を中心とする。必要に応じて資料、ビデオなどを使用する。
評価方法	筆記試験 30%、課題レポート 50%、授業参加度（態度など）20%で総合的に評価する。
その他の事項	
介護福祉士教育に含むべき事項	知識と技術の統合／介護実践の科学的探究

授業科目名	介護総合演習（Ⅱ）	講師名	野村　脩
実施年次／時期	２年次　前期	時間数	30 時間

概要

本科目では、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。２年次の第３段階実習が円滑に、効果的に実施できるための準備を行う。

目標

１．実習の意義と目的について理解できる
２．各実習の準備を行うことができる
３．実習記録を適切に記述できる

内容

１．実習の振り返り（知識と技術の統合・介護実践の科学的探究）
２．実習の振り返り（知識と技術の統合・介護実践の科学的探究）
３．実習の振り返り（知識と技術の統合・介護実践の科学的探究）
４．第３段階実習について
５．ホームヘルプ概論（１）
６．ホームヘルプ概論（２）
７．ホームヘルプ概論（３）
８．実習日誌の書き方（１）
９．実習日誌の書き方（２）
10．実習日誌の書き方（３）
11．第３段階実習の課題・目標設定
12．第３段階実習の課題・目標設定
13．第３段階実習の準備
14．第３段階実習の準備
15．前期試験

教科書　『実習に関する要項』

授業の形態／方法　講義・演習／講義および演習（各人の実習準備作業、レポート作成、グループ討議など）を中心とする。必要に応じて資料、ビデオなどを使用する。

評価方法　筆記試験 30%、課題レポート 50%、授業参加度（態度など）20%で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　知識と技術の統合／介護実践の科学的探究

授業科目名	介護総合演習（Ⅲ） （介護福祉士コース・介護福祉士養成科）	講師名	麻生　理津子・村上　洋次
実施年次 ／時期	2年次　後期	時間数	30時間

概要

本科目は、介護過程の学習の一環として、2年次の夏の第3段階実習（実習Ⅱ）において介護過程の実践的展開の対象とした利用者に関する事例研究を行う。事例研究とは何か、またその方法を学び、事例研究を行うための基礎知識や技法を習得する。論文の作成および発表や講評を行う。なお、本科目は介護過程（Ⅲ）と組み合わせて実施する。

目標

1．質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解できる
2．第3段階実習（実習Ⅱ）において介護過程の実践的展開の対象とした利用者に関する事例研究を行い、論文としてまとめることができる
3．論文に記述した内容を口頭発表することができる

内容

1．介護過程の実践的展開の理解（ふりかえり）と研究テーマの設定（介護実践の科学的探究）
2．事例研究のための基礎知識、技法の習得（1）（介護実践の科学的探究）
3．事例研究のための基礎知識、技法の習得（2）（介護実践の科学的探究）
4．文献検索・資料収集（1）
5．文献検索・資料収集（2）
6．事例研究論文作成（1）
7．事例研究論文作成（2）
8．事例研究論文作成（3）
9．事例研究論文作成（4）
10．事例研究論文作成（5）
11．事例研究論文作成（6）
12．事例研究論文発表・講評（1）（班内）
13．事例研究論文発表・講評（2）（班内）
14．事例研究論文発表・講評（3）（班内）
15．事例研究論文発表・講評（全体会）

教科書　適宜、資料を配布する。

授業の形態／方法　演習・講義
／各自の論文執筆を中心に進める。班内で発表・講評を行う。各班の代表者1名が全体会で発表を行う。全体会には1年生も出席する。

評価方法　事例研究論文の内容80%、授業参加度（態度など）20%で総合的に評価する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　介護実践の科学的探究

授業科目名	発達と老化の理解（Ⅰ）	講師名	麻生　理津子
実施年次／時期	1年次　前期	時間数	30時間

概要

1．人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的変化を理解する。

2．高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、生活を支援するための基礎的な知識を理解する。

目標

1．　人間の成長と発達の基礎的理解を踏まえ、身体的・心理的・社会的変化について理解できる

2．　老化に伴うこころとからだの変化と生活について理解できる

内容

1．人間の成長と発達の基礎的理解（1）― 高齢期の基礎的理解
2．人間の成長と発達の基礎的理解（2）― 加齢による身体機能の変化と日常生活への影響①
3．人間の成長と発達の基礎的理解（3）― 加齢による身体機能の変化と日常生活への影響②
4．老化に伴うこころとからだの変化と生活（1）― 骨粗鬆症と骨折
5．老化に伴うこころとからだの変化と生活（2）― 廃用症候群①
6．老化に伴うこころとからだの変化と生活（3）― 廃用症候群②
7．老化に伴うこころとからだの変化と生活（4）― 褥瘡
8．老化に伴うこころとからだの変化と生活（5）― 感染症
9．老化に伴うこころとからだの変化と生活（6）― 高齢者に多い循環器系の病気
10．老化に伴うこころとからだの変化と生活（7）― 高齢者に多い脳・神経系の病気
11．老化に伴うこころとからだの変化と生活（8）― 生活習慣病
12．模擬問題（1）
13．模擬問題（2）
14．模擬問題（1）（2）の解答・解説
15．前期試験

教科書　『発達と老化の理解』最新 介護福祉士養成講座１２（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義と演習／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験70%、模擬問題および授業参加度（態度など）30%で総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、発達と老化についての講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　人間の成長と発達の基礎的理解／老化に伴うこころとからだの変化と生活

授業科目名	発達と老化の理解（Ⅱ）	講師名	麻生　理津子
実施年次／時期	１年次　後期	時間数	30 時間

概要

１．人間の成長と発達の基礎的理解を踏まえ、ライフサイクルの特徴と発達課題について理解する。

２．人間の心理社会的観点から老年期の発達と成熟、必要となる生活支援について理解する。

目標

１．人間の成長と発達の基礎的理解を踏まえ、ライフサイクルにおける身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解できる

２．老化に伴うこころとからだの変化と生活について理解できる

内容

１．高齢者の定義・老化に伴うこころとからだの変化と生活

２．人間の成長と発達の基礎的理解

３．発達段階と発達課題（１）― ピアジェ・フロイト

４．発達段階と発達課題（２）― エリクソン・ハヴィガースト

５．発達段階と発達課題（３）― ライチャード・ニューガーテン・ペック

６．人の心理的理解（１）― 欲求と防衛機制

７．人の心理的理解（２）― 記憶

８．小テスト ― 欲求と防衛機制

９．人の心理的理解（３）― 条件づけによる学習

10．人の心理的理解（４）― 睡眠

11．小テストの解答と解説、まとめ

12．模擬問題（１）

13．模擬問題（２）

14．模擬問題（１）（２）の解答・解説

15．後期試験

教科書　『発達と老化の理解』最新 介護福祉士養成講座１２（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験 50%、小テスト・模擬問題・授業参加度（態度など）50%で総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］

介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、発達と老化についての講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　人間の成長と発達の基礎的理解／老化に伴うこころとからだの変化と生活

授業科目名	認知症の理解（Ⅰ）	講師名	麻生　理津子
実施年次／時期	１年次　前期	時間数	30 時間

概要

１．認知症を取り巻く社会的環境について理解する

２．認知症の基本障害に随伴して生じる行動と心理状態（ＢＰＳＤ）について理解する。

３．認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解する

目標

１．認知症を取り巻く状況を理解できる

２．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解ができる

３．認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解できる

内容

１．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解（１）

２．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解（２）

３．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解（３）

４．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解（４）

５．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解（５）

６．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解（６）

７．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解（７）

８．認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解（８）

認知症を取り巻く状況、認知症に伴う生活への影響と認知症ケア

９．小テスト

10．小テストの解答と解説

11．認知症の原因疾患（１）

12．認知症の原因疾患（２）

13．認知症の原因疾患（３）

14．認知症の原因疾患（４）

15．前期試験

教科書　『認知症の理解』最新 介護福祉士養成講座１３（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験 50%、小テストおよび授業参加度（態度など）50%で総合的に評価する。

その他の事項　[実務経験のある教員による授業科目]

介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、認知症についての講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　認知症を取り巻く状況／認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解／認知症に伴う生活への影響と認知症ケア

授業科目名	認知症の理解（Ⅱ）	講師名	宮﨑　明子
実施年次／時期	2年次　前期	時間数	30時間

概要

認知症の人のみならず、その家族を支える為の介護の基礎知識を学ぶ。認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援方法について学ぶ。地域におけるサポート体制について理解し活用法を学ぶ。

目標

1．認知症を取り巻く状況を理解できる
2．在宅、介護保険施設、グループホームにおけるそれぞれの生活の場での生活支援技術の違いが理解できる
3．認知症を介護する家族支援について理解できる
4．事例をもとに展開される介護の実践例から介護福祉士の基本姿勢が理解できる

内容

1．認知症の人への介護の基本
2．認知症を取り巻く環境と現状
3．介護老人福祉施設における認知症介護①
4．介護老人福祉施設における認知症介護②
5．グループホームにおける認知症介護①
6．グループホームにおける認知症介護②
7．認知症の人の家族への支援
8．在宅における認知症介護①
9．在宅における認知症介護②
10．脳血管性認知症の人の生活支援
11．アルツハイマー型認知症の人の生活支援
12．認知症の人の介護過程の展開
13．認知症の症状に応じた対応方法を考える
14．連携と協働　地域におけるサポート体制
15．試験

教科書　『認知症の理解』最新 介護福祉士養成講座１３（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。

評価方法　筆記試験80%、授業態度10%、提出物10%を総合的に評価する。

その他の事項　[実務経験のある教員による授業科目]
介護福祉士を取得後5年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員が、認知症についての講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　連携と協働／家族への支援

授業科目名	障害の理解（Ⅰ）	講師名	星野　大輔
実施年次／時期	1年次　後期	時間数	30時間

概要

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。

目標

1．障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解することができる
2．医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解することができる
3．障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、ＱＯＬを高める支援につなげることができる

内容

1．障害の基礎的理解①　障害の概念（1）
2．障害の基礎的理解②　障害の概念（2）
3．障害の基礎的理解③　障害者福祉の理念（1）
4．障害の基礎的理解④　障害者福祉の理念（2）
5．障害の基礎的理解⑤　障害者福祉に関連する制度
6．障害の基礎的理解⑥　障害者福祉制度と介護保険制度
7．障害の医学的・心理的側面の基礎的理解①　障害のある人の心理（1）
8．障害の医学的・心理的側面の基礎的理解②　障害のある人の心理（2）
9．障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援①　肢体不自由（運動機能障害）
10．障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援②　視覚障害
11．障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援③　聴覚・言語障害
12．障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援④　重複障害
13．障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援⑤　内部障害
14．障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援⑥　重症心身障害
15．後期試験

教科書　『障害の理解』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書と資料を併用。

評価方法　筆記試験80%、授業参加度（態度など）20%で総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、障害についての講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　障害の基礎的理解／障害の医学的・心理的側面の基礎的理解／障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援

授業科目名	障害の理解（Ⅱ）	講師名	七田　つたえ
実施年次／時期	2年次　前期	時間数	30時間

概要

障害のある人の医学的・心理的側面の基礎的理解をし、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援ができる介護の基本視点を学ぶ。障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援体制の基礎的知識を理解する。また家族の受容段階や介護力に応じた家族への支援について考える。

目標

1. 形態別に障害の概要が理解できる
2. 機能の変化で生活に及ぼす影響を理解し、生活支援技術の知識を得る
3. 生活障害が理解でき、その人らしい生活の実現のための支援について考えることができる
4. 多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解できる
5. 家族の課題について理解することができる

内容

1．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（知的障害①）
2．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（知的障害②）
3．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（精神障害①）
4．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（精神障害②）
5．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（高次脳機能障害①）
6．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（高次脳機能障害②）
7．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（発達障害①）
8．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（発達障害②）
9．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（難病①）
10．障害別の基礎的理解と特性に応じた支援（難病②）
11．連携と協働（地域のサポート体制）
12．連携と協働（チームアプローチ）
13．家族への支援
14．まとめ
15．修了試験

教科書　最新介護福祉士養成講座14『障害の理解』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／教科書にて講義 必要時プリント配布

評価方法　筆記試験、小テスト・レポート、授業態度等総合的に評価

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
介護福祉士を取得後 5 年以上の介護実務経験がある教員または看護師を取得後 5 年以上の看護実務がある教員が、障害についての講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　障害の医学的・心理的側面の基礎的理解／障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援／連携と協働／家族への支援

授業科目名	こころとからだのしくみ（Ⅰ）	講師名	北川　香奈子
実施年次／時期	1年次　通年	時間数	60時間

概要　人間の心理や人体の構造・機能を理解するための基礎的な知識を学び、このことが介護実践の根拠となるように学習する。単に医学的知識の習得に留まらず「介護を行うために」という視点を基盤に「予防」の視点が身につくようにこころのしくみの理解・からだのしくみの理解を学習する。

目標

1．解剖学、生理学、運動学、心理学等をもとに、人が生活する上でこころとからだはどのように働くのかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力、の基礎となる知識を理解できる

2．介護福祉士が利用者に関わる際には、健康を意識した支援を実践することが大切で、「予防の視点」を身につけることが求められる。その根拠のために人体の構造・機能と合わせて疾病の発生メカニズムが理解できる

3．介護福祉士は、「生活」の場で活躍していくことから、そこには常に五感をとおして生活は営まれている。その根拠を理解するために「脳の機能と構造」を学ぶことでこころのしくみの理解・からだのしくみの理解を関連させて理解ができる

内容

1．オリエンテーション
2．からだのしくみの理解
　①身体の形と臓器の場所の理解
3．からだのしくみの理解
　②組織・器官系・恒常性
4．からだのしくみの理解③感覚器系
5．からだのしくみの理解④神経系
6．からだのしくみの理解⑤筋系
7．からだのしくみの理解⑥骨格系
8．からだのしくみの理解⑦ボディメカニクス
9．からだのしくみの理解⑧消化器系
10．からだのしくみの理解⑨呼吸器系
11．からだのしくみの理解⑩循環器系
12．からだのしくみの理解⑪バイタルサイン
13．からだのしくみの理解⑫泌尿器系
14．からだのしくみの理解⑬前期まとめ
15．試験
16．からだのしくみの理解⑭生殖器系
17．からだのしくみの理解⑮内分泌系
18．こころのしくみの理解
　①自己実現と生きがい
19．こころのしくみの理解②脳のはたらき
20．こころのしくみの理解③脳のはたらき
21．こころのしくみの理解④感覚・知覚
22．こころのしくみの理解⑤認知
23．こころのしくみの理解⑥動機づけ
24．こころのしくみの理解⑦感情
25．こころのしくみの理解⑧適応と適応障害
26．こころのしくみの理解⑨適応と適応障害
27．こころのしくみの理解⑩社会性
28．こころのしくみの理解⑪社会性
29．こころのしくみの理解⑫まとめ
30．試験

教科書　『こころとからだのしくみ』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義／講義は教科書と配布したプリントを使用する。パワーポイントを用いて講義をする。

評価方法　筆記試験、小テスト・授業態度・出席状況で総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
看護師を取得後5年以上の看護実務がある教員がこころとからだのしくみについての講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　こころのしくみの理解／からだのしくみの理解

授業科目名	こころとからだのしくみ（Ⅱ）	講師名	北川　香奈子
実施年次／時期	１年次　通年	時間数	60 時間

概要　生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、および心身の機能の低下や障害が生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識を、「生活支援技術」の根拠となる介護領域の科目である。人体の構造や機能及び生活支援提供における安全への留意点や心理的側面への配慮を含めて学習する。

目標
1．移動、身じたく、食事、入浴、排泄、休息・睡眠等の生活場面ごとにこころとからだのしくみ、心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察のポイント、医療職との連携のポイント等を理解できる
2．生活障害とはどのようなメカニズムで生じるのかを学び、よりよい介護実践に活かしていく視点を身につけることができる
3．介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義を理解できる
4．利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に判断し、自立支援に資するサービスを総合的・計画的に提供できる能力を習得することができる
5．高齢や障害があることによって生活上必要とされる心理的社会的ケアに気づくことができる知識を身につけることができる

内容

1．身じたくに関連したこころとからだのしくみ
①身じたくに関連する基礎知識
2．②顔・口腔・爪・髪の清潔
3．③機能低下・障害が及ぼす影響
4．④変化の気づきと対応
5．移動に関連したこころとからだのしくみ
①活動に関連する基礎知識
6．②活動と生活動作
7．③機能低下・障害が及ぼす影響
8．④機能低下・障害が及ぼす影響
9．⑤変化の気づきと対応
10．食事に関連したこころとからだのしくみ
①食事に関連する基礎知識
11．②食べることのしくみ
12．③消化・吸収
13．④機能低下・障害が及ぼす影響
14．⑤変化の気づきと対応
15．試験
16．入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ ①清潔に関連する基礎知識
17．②清潔保持の実際
18．③機能低下・障害が及ぼす影響
19．④変化の気づきと対応
20．排泄に関連したこころとからだのしくみ
①排泄に関連する基礎知識
21．②排泄の意義としくみ
22．③機能低下・障害が及ぼす影響
23．④変化の気づきと対応
24．休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ
①睡眠に関連する基礎知識
25．②機能低下・障害が及ぼす影響
26．人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ
①死の捉え方・からだの変化
27．②死に対する心の理解
28．③医療職との連携
29．まとめ
30．試験

教科書　『こころとからだのしくみ』（中央法規出版）

授業の形態／方法　講義・演習
講義は教科書と配布したプリントを使用する。演習は、実習体験などをとおして話合う。

評価方法　筆記試験９０％、小テスト・授業態度・出席状況１０％で総合的に評価する。

その他の事項　［実務経験のある教員による授業科目］
看護師を取得後５年以上の看護実務がある教員がこころとからだのしくみについての講義を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項　身じたくに関連したこころとからだのしくみ／移動に関連したこころとからだのしくみ／食事に関連したこころとからだのしくみ／入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ／排泄に関連したこころとからだのしくみ／休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ／人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ

授業科目名	医療的ケア（Ⅰ）	講師名	西　涼子
実施年次／時期	2年次　前期	時間数	60時間

概要

①介護福祉士が医行為の一部を業として行うことができるようになった背景を知る。

②医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実践するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的知識、医療職と介護職との連携について理解する。

③「喀痰吸引」（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）・「経管栄養」（半固形化栄養剤含む胃ろう経管栄養、経鼻経管栄養）の基礎的知識、実施手順とその留意点について理解し、根拠に基づく手技が実施できるようになる。

④医療的ケアを行う者として、異常を発見した時に適切な対応が出来るようになる。

目標

1. 医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解できる
2. 喀痰吸引実施の手順と留意点について理解できる
3. 経管栄養実施の手順と留意点について理解できる
4. 医療職と介護職の連携について理解できる

内容

1.医療的ケア実施の基礎①（医療的ケア）
2.医療的ケア実施の基礎②（医療的ケア）
3.医療的ケア実施の基礎③（安全な療養生活）
4.医療的ケア実施の基礎④（安全な療養生活）
5.医療的ケア実施の基礎⑤（清潔保持と感染予防）
6.医療的ケア実施の基礎⑥（清潔保持と感染予防）
7.医療的ケア実施の基礎⑦（健康状態の把握）
8.医療的ケア実施の基礎⑧（健康状態の把握）
9.喀痰吸引基礎的知識①（呼吸のしくみ）
10.喀痰吸引基礎的知識②（いつもと違う呼吸状態）
11.喀痰吸引基礎的知識③（喀痰吸引とは）
12.喀痰吸引基礎的知識④（人工呼吸器と吸引）
13.喀痰吸引基礎的知識⑤（子どもの吸引）
14.喀痰吸引基礎的知識⑥（呼吸器系の感染と予防）
15.喀痰吸引基礎的知識⑦（急変・事故への対応）
16.喀痰吸引実施手順①
17.喀痰吸引実施手順②
18.喀痰吸引実施手順③
19.喀痰吸引実施手順④
20.経管栄養基礎的知識①（消化器系のしくみ）
21.経管栄養基礎的知識②（消化器の症状）
22.経管栄養基礎的知識③（経管栄養とは）
23.経管栄養基礎的知識④（注入食）
24.経管栄養基礎的知識⑤（子どもの経管栄養）
25.経管栄養基礎的知識⑥（感染と予防）
26.経管栄養基礎的知識⑦（急変・事故への対応）
27.経管栄養実施手順①
28.経管栄養実施手順②
29.経管栄養実施手順③
30.経管栄養実施手順④

教科書	最新 介護福祉士養成講座15『医療的ケア』 中央法規出版
授業の形態／方法	講義・演習 ／教科書使用　必要時プリント配布　演習はシミュレーターを使用
評価方法	筆記試験、授業参加度、演習
その他の事項	［実務経験のある教員による授業科目］ 看護師を取得後5年以上の看護実務があり、教員講習会を修了している教員が、医療的ケアの講義および演習を行う。
介護福祉士教育に含むべき事項	医療的ケア実施の基礎／喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）／経管栄養（基礎的知識・実施手順）

授業科目名	医療的ケア（Ⅱ）	講師名	西　涼子・北川香奈子
実施年次 ／時期	2年次　後期	時間数	30時間

概要

① 医療的ケアにおける「倫理」「リスクマネージメント」を考える。

② 医療的ケアが施設や在宅でどのように実践されているかを知り、他職種や地域との連携について学び、介護福祉士の医療的ケアにおける役割について学ぶ。

③ シミュレーターを使用した「喀痰吸引」、「経管栄養」の各演習において、ケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）と留意点について理解し、根拠に基づいた安全で確実な手技を習得する。

目標

1. 医療的ケアにおける倫理・リスクマネージメントを理解できる。
2. 多職種、地域との連携について理解できる。
3. 喀痰吸引を効果的に演習でき一人で実施できる
4. 経管栄養を効果的に演習でき一人で実施できる
5. AED資格講習資格取得

内容

1. 喀痰吸引実施手順①
2. 喀痰吸引実施手順②
3. 経管栄養実施手順①
4. 経管栄養実施手順②
5. 演習：救急蘇生
6. 演習：経管栄養のケア実施①
7. 演習：経管栄養のケア実施②
8. 演習：経管栄養のケア実施③
9. 演習：経管栄養のケア実施④
10. 演習：経管栄養のケア実施⑤
11. 演習：喀痰吸引の実施①
12. 演習：喀痰吸引の実施②
13. 演習：喀痰吸引の実施③
14. 演習：喀痰吸引の実施④
15. 演習：喀痰吸引の実施⑤

教科書　最新 介護福祉士養成講座 15『医療的ケア』 中央法規出版

授業の形態／方法　講義・演習／教科書使用　必要時プリント配布　演習はシミュレーターを使用

評価方法　実技試験、授業参加態度として評価。
実技試験は、「喀痰吸引等研修実施要項(厚生労働省)」に定める「基本研修(演習)の評価基準」に準じた1項目につき5回以上の実施を行う。
AED資格講習（普通救命講習Ⅰ）に準じて評価し資格取得する。

その他の事項　[実務経験のある教員による授業科目]
看護師を取得後5年以上の看護実務があり、教員講習会を修了している教員が、医療的ケアの講義および演習を行う。

介護福祉士教育に含むべき事項
喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）／経管栄養（基礎的知識・実施手順）／演習

授業科目名	介護実習（Ⅰ）（Ⅱ） （介護福祉士コース／介護福祉士養成科）	講師名	野村　脩・麻生理津子 村上　洋次・辻　友紀
実施年次 ／時期	１年次・２年次	時間数	456 時間

概要　介護実習には、実習Ⅰと実習Ⅱの２つの区分がある。実習Ⅰとは、利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置いた実習である。

実習Ⅱとは、一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置いた実習である。

介護実習において、以下の３点について特に実施し、学習する。①介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ（介護過程の実践的展開）、②多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ（多職種協働の実践）、③対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ（地域における生活支援の実践）。

目標

１．地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得することができる
２．本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践することができる

内容

教科名	区分	日数	時間	年次	実習先	時期
介護実習（Ⅰ）	実習Ⅱ（第１段階）	７日間	56 時間	１年次	介護老人福祉施設	８月
	実習Ⅰ	２日間	16 時間	１年次	通所介護事業所	８月
	実習Ⅰ	５日間	40 時間	１年次	認知症対応型共同生活介護事業所	８～９月
	実習Ⅰ	２日間	16 時間	１年次	就労移行・継続支援施設	11～12 月
	実習Ⅱ（第２段階）	20 日間	160 時間	１年次	介護老人福祉施設 介護老人保健施設	２～３月
介護実習（Ⅱ）	実習Ⅱ（第３段階）	21 日間	168 時間	２年次	介護老人福祉施設 介護老人保健施設 障害者支援施設　等	８～９月

教科書　『実習に関する要項』

授業の形態／方法　実習／各施設・事業所で実習する。施設職員による指導に加えて、担当教員による巡回訪問指導を受ける。帰校日を設けている実習は学内で担当教員による指導を受ける。

評価方法　評価はそれぞれの実習を５～１の５段階でつける。１の場合は再実習とする。原則として実習施設の実習指導者がつけた評価を適用する（実習前・中・後の状況を鑑みて実習巡回担当教員が調整する場合もある）。介護実習（Ⅰ）は第１段階 30%、通所介護実習 10%、認知症対応型共同生活介護実習 10%、第２段階実習 40%、就労移行・継続支援施設実習 10%で按分する。

その他の事項

介護福祉士教育に含むべき事項　介護過程の実践的展開／多職種協働の実践／地域における生活支援の実践